



タイムアウト要求前後の得点経過の比較

静岡産業大学

塚本 博之(静岡産業大学) 村本名史(常葉大学) 高根信吾(常葉大学) 安田 貢(山梨学院大学)

1. 研究の目的

指導者はどのような場面でタイムアウトを要求しているのかを、実際のゲームデータで検証する。そして、タイムアウトがゲームの流れにどのような影響を及ぼしているか、要求前後3ラリーの得点経過を比較し、タイムアウトを有効に使うための指導者マニュアルを作成することを最終目標とする。

2. 研究の方法

調査対象: 2019年4月13日(土)~5月19日(日) 第147回 東海大学男女バレーボール春季リーグ戦

男子1部28ゲーム103セット、男子2部26ゲーム99セット、女子1部28ゲーム100セット、女子2部21ゲーム75セット

調査方法: JVIMSデータのF帳票を活用し、1回のタイムアウトについて、要求チーム、対戦チーム、セット、要求時の両チームの得点、要求前3ラリーの状況、要求後3ラリーの状況、の6項目を調査し、エクセルシートにまとめた。

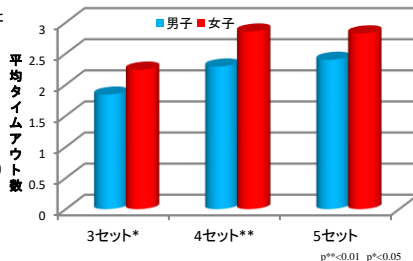
タイムアウト要求前後3ラリーについては、得点(O)、失点(X)を8パターンに分類した。

3. 結果

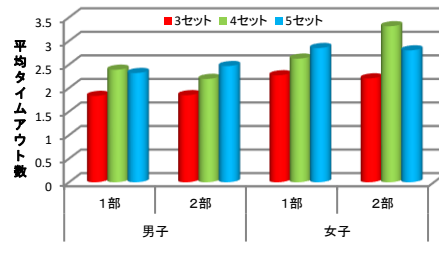
①タイムアウト要求数について

タイムアウトの要求回数について、男女差を比較した
また、3-0(3セット)、3-1(4セット)、3-2(5セット)ゲームでの要求回数も比較した
・男子1部221回、2部214回、女子1部250回、2部195回の要求があった
・女子の方がタイムアウト要求の多い
・セット数が多くなるゲームほどタイムアウトの要求数も増える傾向にある

男女別セット平均タイムアウト要求数



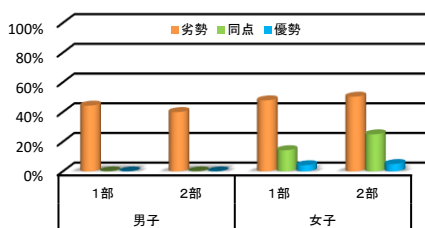
セット別平均タイムアウト要求数



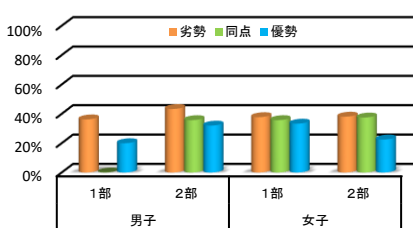
②タイムアウト要求時の状況について

ゲームをリードチームの得点で、序盤(0~8)、中盤(9~16)、終盤(17~)に分け、タイムアウト要求時の違いを比較した
・序盤は劣勢チームの要求が多い
・中盤は平均的
・終盤は同点または優勢チームの要求が多い

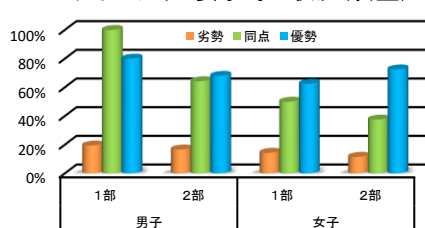
タイムアウト要求時の状況(序盤)



タイムアウト要求時の状況(中盤)



タイムアウト要求時の状況(終盤)



③タイムアウト要求前の状況について

実際のゲームではどのような得点状況で、タイムアウトを要求しているか調査した

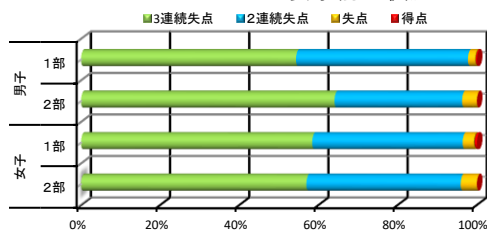
- ・男女とも95%以上が2連続失点または3連続失点で要求している
- ・3連続失点後の要求も50%以上
- ・得点後の要求はほぼない

タイムアウト要求前の状況

	タイムアウト	3連続失点	2連続失点	失点	得点
男子	1部	221 (54.3)	120 (43.4)	96 (1.8)	4 (0.5)
	2部	214 (64.0)	137 (31.8)	69 (3.7)	8 (0)
女子	1部	250 (58.4)	146 (38.0)	95 (2.8)	7 (0.8)
	2部	195 (56.9)	111 (39.0)	76 (4.1)	8 (0)

()内は%

タイムアウト要求前の状況

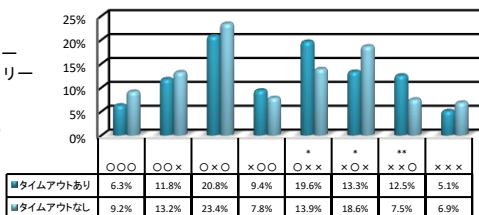


④3連続失点後の3ラリー比較

3連続失点後、タイムアウトを要求した後の3ラリー(男子255回、女子251回)と、しなかった後の3ラリー(男子612回、女子953回)を比較した

- ・男子
3ケースで有意差がみられたが、タイムアウトの有効性は確認できなかった
- ・女子
いずれのケースでもタイムアウトがその後のゲーム展開に影響したとは言えない

3連続失点後の3ラリー(男子)



p**<0.01 p<0.05

3連続失点後の3ラリー(女子)

